

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年6月24日

【評価実施概要】

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 4092900010 |
| 法人名 | アースサポート有限会社 |
| 事業所名 | グループホーム めぐみ苑 |
| 所在地 (電話番号) | 福岡県小郡市大崎738-1 (電話) 0942-23-8838 |
| 評価機関名 | 社団法人 福岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F |
| 訪問調査日 | 平成21年4月11日 |

【情報提供票より】(平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|--------|--------------------|
| 開設年月日 | 平成 18年 5月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット |
| 職員数 | 10 人 |
| 利用定員数計 | 18 人 |
| 常勤 | 10人, 非常勤 人, 常勤換算 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--|--|
| 建物形態 | 併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> | <input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築 |
| 建物構造 | 鉄骨 造り | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--|----------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 36,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | <input checked="" type="radio"/> 有 (100,000 円) <input type="radio"/> 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | <input checked="" type="radio"/> 有 (円) <input type="radio"/> 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 1,000 円 | |

(4) 利用者の概要(平成21年3月10日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 12 名 |
| 要介護1 | 6 名 | 要介護2 | 2 名 | | |
| 要介護3 | 5 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 1 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 68 歳 | 最高 | 97 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | 赤司内科医院、菊池整形外科医院、丸山病院、花田歯科医院 |
|---------|-----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

七夕伝来の地と言われている七夕神社、正式には媛社(ひめそこ)神社の近くにあるグループホームである。皆が集うリビングの窓からは、遠くに背振山が広がり、桜や麦畑等の四季折々の風景を楽しむことが出来る。認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活が出来るようにと、グループホームを設立した。運営者の熱き想いが職員をはじめ、ホームで生活している利用者一人ひとりの笑顔に反映されている。利用者からは「いいとこねえ。ここで良かった。」また、そこで働く職員にも「100点満点」とお褒めの言葉を頂いている。運営者は、地域の集まりで認知症の講座を開く等地域の福祉の向上に熱心である。日々その人らしく安心して生活が出来るよう、常に利用者のことを一番に考え、理念の実現に向け職員全員で取り組んでいる。認知症高齢者介護のプロとして、今後も大いに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

| | | |
|------|---|--|
| 重点項目 | ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | ② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| 重点項目 | ③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | ④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) |
| 重点項目 | ⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | ⑥ | |

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「明日は我が身・尊敬と感謝・思いやりの気持ちを大切に・地域の一員としての役割をはたします」と地域密着サービスの役割としての事業所独自の理念を職員全員で作っている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 全ての職員は事業所の理念の中身を理解し理念の実現に向け日々サービスを提供している。1階と2階の入り口に理念を掲げ日頃から確認するようにしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の七夕祭りや花火大会には利用者と一緒に参加している。近くの酒屋の裏庭に集い花火見学を楽しむのが恒例となっている。また年に2回の清掃活動には利用者と共に参加している。近隣の方から野菜や漬物を頂く事も多く日常的に交流が図られている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 外部評価を受けるにあたり、運営者は全ての職員を対象に事前に研修を行なった。調査項目の一つひとつについて確認を行い自己評価に取り組み、みんなで意見を出し合い管理者が一つにまとめている。前回の評価を受け、地域密着サービスとして事業所独自の理念を作りあげている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月毎に開催している。家族や地域の代表者や市の担当者が参加している。毎回利用状況を説明し施設の理念や介護方針についても理解して頂くようにしている。避難訓練の参加を呼びかける等地域に根ざしたホームを目指し取り組んでいる。前回の外部評価の結果は会議で報告をしている。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 処遇困難な事例については、市の担当者に相談し助言指導を仰いでいる。利用者と家族が安心して生活が出来る様サービスの質の向上に向け共に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|---|---|------|---|
| 7 | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 現在、制度を利用している利用者はいない。管理者や職員は研修会に参加する等して制度の理解に努めている。契約時に本人や家族に説明を行い、必要な時にはいつでも相談窓口で橋渡しができるよう支援体制をとっている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族宛の手紙に添えて、毎月利用者の健康状態やホームでの暮らしぶり、管理者の異動や離職についても報告している。金銭管理については、詳細に記録に残し月に1度は家族に説明しサインを頂いている。遠方に住む家族には出納帳をコピーし郵送すると共に面会時にレシートを基に説明する等個々に応じた報告をしている。 | | |
| 9 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置する等して意見や要望を聞きだすようにしている。また年に1回秋頃に家族会を開催している。家族の面会時にはお茶を勧め話し易い雰囲気作りに取り組んでいる。以前に、家族から健康維持のため運動を取り入れてほしい旨の依頼があり、意見を反映させて運動器具を購入した。 | ○ | 家族等からの不満や苦情は事業所にとって貴重な意見です。家族会では、職員が席を外して家族同士で話し合う時間を設ける等して意見や要望を聞きだす事も一つの方法です。率直な意見を運営に反映出来るよう更なる取り組みに期待したい。 |
| 10 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 前回の外部評価後2名の職員が退職しているが、いずれも結婚の為の寿退社である。基本的には法人内の異動は行なわないことにしている。また離職を最小限に抑える為、総ての職員を正職員として雇用し、休みの希望には極力応じる等職員の職場環境の充実を図っている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 現在20歳代から50歳代まで幅広い年齢層の職員を採用している。総ての職員を正職員として雇用し安定した雇用形態としている。また職員の得意な手芸や裁縫等仕事で発揮できるよう関わってもらっている。趣味や資格取得のため勤務希望に極力応じる等配慮している。 | | |
| 12 | 20 | ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権に関する外部研修に参加するようにしている。また法人代表者は、日頃から職員に対し言葉の持つ影響力や重要性について指導を行い人権教育、啓発活動に取り組んでいる。 | | |
| 13 | 21 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 同法人内の合同研修を年に2～3回開催している。また外部研修にも積極的に参加できるよう職員の質の確保や向上に向け取り組んでいる。研修に参加出来なかった職員については、資料を回覧するなどして研修内容を共有できるように仕組みをとっている。運営者は介護の現場で助言指導を行い職員の育成にあたっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|--|---|------|----------------------------------|
| 14 | 22 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営者は同業者との交流や連携の必要性を認識しており、グループホーム連絡協議会や小郡三井地区介護保険研究会を通じて、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を作っている。また、6月に、近隣のホームで行われる音楽会に参加する予定がある。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 | 28 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前に施設長と管理者が、自宅や入院先に何度も足を運び、顔なじみの関係を作るようにしている。住まいが変わっても安心して暮らしていけるよう、家族の協力を得ながら時には娘さんの先生になったり友人になったりして、工夫しながら取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者から、地域の慣わしや方言について教えて頂くことが多い。またふきの皮のむき方や花の植え替えの方法等、教えて頂く場面を積極的に作っている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 | 35 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々利用者とのかかわりの中で、言葉や表情で利用者の思いを把握するよう努めている。困難な場合は、職員間で話し合ったり家族から情報を収集したりして、利用者本位に検討するよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 | 38 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者や家族の意向や要望を重視した、利用者主体の暮らしが実現できるような介護計画となっている。夜勤帯に職員が記入している気づきや意見などを基に、家族や医療機関とも情報交換を行いながら介護計画を作成している。 | | |
| 19 | 39 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っている。利用者の日常生活や健康状態に変化があればその都度見直しを行っている。家族や関係者で話し合い、現状に即した介護計画書を作成し家族に報告している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|----|---|--|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 | 41 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者一人ひとりの要望に添った病院や理美容室への同行など家族に代わって外出の支援が行われている。地域の団体の集まりや施設の見学者に対して、施設長が認知症についての話や介護保険制度の説明など行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 | 45 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 1週間に2回(火・木)協力医院の往診と、本人、家族が希望する医療機関への送迎を行って、かかりつけ医との連携に努めている。受診に同行し時間がかかる場合は、家族の協力をお願いすることもあり、契約時に説明を行っている。 | | |
| 22 | 49 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や終末期への支援ができるように同意書やマニュアルを作成している。入居時に利用者、家族と方針について話し合い、職員間で共有している。現在までに対象者はいないが、必要に応じていつでも対応が出来るように協力医や職員間で体制を整えている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 | 52 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 日々の関わりの中で、利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉かけや対応に職員全員で取り組んでいる。個人情報に関する記録等は事務所に適切に保管し秘密保持に努めている。 | | |
| 24 | 54 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的には一日のプログラムはあるが、一人ひとりのその日、その時の思いを大切にケアを行っている。利用者と職員との交流の時間をできるだけ多く持ち、利用者の気持ちに添えるよう支援している。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 | 56 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みを聞き、献立に取り入れるようにしている。また地域の方から頂いた季節の野菜の調理法を、利用者から教わりながら料理作りを楽しんでいる。職員も共にテーブルを囲み同じ食事をとっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|---|------|---|
| 26 | 59 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は毎日15時～18時までとしているが、時間外の要望があれば対応できるようにしている。浴室の窓から庭が眺められ、温泉気分だと喜ばれている。みかんの皮などを浴槽に浮かべたり好みの音楽を流したりして、楽しく入浴できるように支援している。入浴を拒む方には、足浴等を勧め清潔保持に努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 居間のカーテンの開閉、日めくりカレンダーめくり、洗濯物たたみ、料理作り、ピアノ弾きなど、一人ひとりの生活歴や力を活かし、出番作りや役割作りに取り組んでいる。 | | |
| 28 | 63 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 季節に合わせて天気の良い日は近くを散歩したり、要望に添って近隣の大型スーパーへ買い物に行く等、事業所内だけで過ごすことがないように支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 | 68 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、1階の玄関は8時から18時の間は原則施錠されないが、職員の手薄になった際(買い物や入浴時)に、しばらくの間施錠が行われる。そのことについては家族会で説明し了解をもらっている。 | ○ | これまで何度となく、日中鍵をかけないですむ工夫に取り組んでこられ、結果として人命重視の観点等からやむを得ず施錠がされている過程は十分理解が出来るが、施錠しない時間を少しずつ短くする等の取り組みを今後とも期待したい。 |
| 30 | 73 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 避難訓練は年に2回実施している。昼夜を想定した消防署との避難訓練と、ホーム独自の避難訓練を行っており、職員は通報や初期消火や誘導の手順を把握している。今回は都合で地域住民の参加は得られなかったが、地域との協力体制も整っている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分の摂取量などは把握し、活動記録台帳に記載するなど、健康管理に取り組んでいる。カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為に栄養士の作った献立を基に調理する仕組みをとっている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関の外と内側には憩いのテーブルが設置されており、訪問した時、数人が玄関前のテーブルを囲みシャボン玉遊びに興じていた。明るい共有のリビングからは背振山が広がり、麦の穂が青々とガラス越しに眺められ季節感が感じられる空間となっている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----|----|---|---|------|----------------------------------|
| 33 | 85 | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>全室が畳敷きであり窓のカーテンは、利用者や家族の好みを取り入れている。入居前に馴染んでいた筆筒や置物、椅子、写真、絵画などが持ち込まれ、生活の継続性を尊重した居心地よく過ごせる支援が行われている。</p> | | |